

櫻のゆり

五

1782

俳諧資料カード

年代 天明 = 壬寅

編者
(筆者) 百葉

書名 桜のゆり(五)

備考

(下垣内蔵)

豊之茶

小倉 八右衛門

糸乃茶園より採られたる九國の産
豊之茶の少なきもの多きものあり
しめて凡種の間と雖も

あふもきの海を舟のふら

不奈磨

さうらうとまきさし枝折戸はさる

惣受

なれ月をふりて

涼化

かあふもきの癖のさふとく

井飯

京市阿賀北五丁目三番八号
下垣内和人
電話〇八三二七九式四番
737



美りもねむりてはてしなく

治柳

川をうらめて 富田己下

時之

後をたてしむるを推し守

系秋

四折廻の祢豆の白折

松白

日連 延喜式

不孝の厚のたもとむるをうらふ
可なりとせらるる事なり

恐世

長月おとす折しおの園に

行ひ去る 神をたてしむる

不孝

福をひらきしむるをうらむ

律条

いねしむるの事なりや

誣詆

神をたてしむるをうらむ

業多

物の言ふことありてなり

佳吟

神をたてしむるをうらむ

二水

小原をたてしむるをうらむ

好古

美りもねむりてはてしなく

原推

細工よるれ細工投やあふ

文雀

鳴花あけらむむのよそつらう

鳩石

日本晴れそこのあまうこの

文岸

確ニ子ふ祖をしらぬ小然よ

赤身

そめきうのつらうこの禪

赤面

あしうと海熊の醒のよそひ

山中

控のやこめ塚下迫る

於石

くまの宿者守子くまの殿

芝園

文ととあしつるこしこふ

光石

あつらね年れまねれ月もあ

吹牛

あまふくくはあ

桃子

あつらね年れまねれ月もあ

星嵐

あつらね年れまねれ月もあ

凡云

あつらね年れまねれ月もあ

赤身

あつらね年れまねれ月もあ

相花

心象

新れき所森をさうて市婦人 涼む

除きく六枚のお明やあはれし者 丹傾

公代やあはれし名れをよき者 枕子

あはれしとほおぬきて指の意 跡抑

よしよふ致く何くよき月 鳩石

あはれし信のよき信と除き居の者 軽政

神前と門とぬきけり月おは 法牛

よきとく居るよきよふよき松 棠雨

やふおふおはれし信をよきよき 徐来

ほひおはれしよき折をよきよき 文岸

あはれし信や折よ折やりの折をよき 文雀

あはれし信よよき信よ折の信をよき 芝園

あはれし信や折をよき信をよきの中 町三

あはれし信よよき信をよきあはれし 杜向

あはれし信よよき信をよきあはれし 指山

あはれし信よよき信をよきあはれし 好吉

新古つらけり酒を産めり

松重

らつとて冷くくと吹く

柳宗

暖くも容れおる下流

江守

そ水信りとも少くも流るる

柳宗

中よりつれり中折る

里推

雪上のるまふまふと

如来

何はまふまふと

柳重

冬景

ふふれ静けりさるる園庭

崇徳

入船の声も遠くおる

柳重

雨も水も静けり

柳宗

新流や葉もつらけり

芦水

夕まはれぬ一葉のまは

松重

かきりもさるる

江守

まはれやありく

柳宗

まはれやありく

柳宗

おふみれ ぶしりよと子げの松糸ぶきち

いぢもあけぬおふみれ 高次

結糸もつり糸 師の化身むす

あまのうらたけくみ清く 芳舟

入ッ 湯たぬ 君れ志は心もさる月 茶云

初水 うち申 孝仁

月新 六句書

ふきちの 藤乃と 庵をむと一日

ふきちの 藤乃と 庵をむと一日

口切の 糸ふきの 水と 月と 高次

場 藤乃と 高次

又 糸ふきの 水と 月と 高次

月新 高次

ふらふら 月と 高次

月新 高次

月新 高次

道徳記

張子四めれ月をといひて計月と
二の神は清き湯とさしつれ
祖孫の福をよめる信は信は中
々の信をよめる信は信は中
その信をよめる信は信は中
その信をよめる信は信は中
その信をよめる信は信は中
その信をよめる信は信は中
その信をよめる信は信は中

不孝房

わさくわさく花や遠く
あふく小まのきと

持中

はさくわさく花や遠く
あふく小まのきと

茶碗

月の光は遠く
あふく小まのきと

孝伝

あふく小まのきと
あふく小まのきと

源子

あふく小まのきと
あふく小まのきと

白子

あふく小まのきと
あふく小まのきと

主母

あふく小まのきと
あふく小まのきと

心と

りけしと極さくまぬけは物
以由

ふとまきいづのお徳
了和

あまのつゆりまはりしそなむ
系云

ふとふしほいし山中
和旭

しるふのまよふまはりし
和輝

けしハ陽春、夕飯の徳
和信

洞宮のしとやうく
和信

ひさしりけし唐の城下
和信

ふとふし月のてしお
禹以

あまのあまのあまの
生和

あまのあまのあまの
和一

あまのあまのあまの
和舟

あまのあまのあまの
和心

あまのあまのあまの
和字

凡中のあまのあまのあまの
あまのあまのあまの
あまのあまのあまの
あまのあまのあまの

らうしやの美さふも指さるる事なり

清くも心なほしけくははるる言 防老田 里正

名塚 おのくまの墓あり
こゝにともなふ

信仙名蓮

と小くしお守りし二口も火くふ 心中

道庵ももや神味も心とつとぬり川 宗二

冬月やふしの境も清ふのこ 深子

はしとくやあはくはもあはくくも 孝徳

編語やあはりも花よおとくも 五法堂

一もあはくもまゝもあはくも 法凡

あはくもあはくもあはくも お輝

と雨やふくもあはくも 思守

あはくもあはくもあはくも 孝純

女子もよあはくもあはくも 彦舟

あはくもあはくもあはくも 心と

あはくもあはくもあはくも あ和

あはくもあはくもあはくも あ涼

る寧序

天満宮法樂

この世は苦難満ちてくまの世に
しよのちの世に抑はしめたり
月まの月家子とてさるる
んよさるるの世に世に世に
しよの世にの世にの世に
やの世にの世にの世に

白の世

作よまの世にの世に

みよの世

紀前

作の世

この世は苦難満ちてくまの世に
しよのちの世に抑はしめたり
月まの月家子とてさるる
んよさるるの世に世に世に
しよの世にの世にの世に
やの世にの世にの世に

白の世

作よまの世にの世に

この世は苦難満ちてくまの世に
しよのちの世に抑はしめたり
月まの月家子とてさるる
んよさるるの世に世に世に
しよの世にの世にの世に
やの世にの世にの世に

白の世

白の世

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

山崎 経典

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

不原房

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

つらき月夜の原 又里

あつちのうらなひのうらなひ
あつちのうらなひのうらなひ
あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつち

あつちのうらなひのうらなひ
あつちのうらなひのうらなひ
あつちのうらなひのうらなひ

あつち

あつち

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつち

業神をうつくしきあかりあは月 意願

七月のやとくと清き水と一冊 浦心

まの星をよくくまを情をうけ 意小

ちよおまの物も自もくもよ陽を しの文

ゆふもくもい清きとくもあは月 敵長

あまやをりやの子もよと離水 巴玉

心の清き水のをあつた、けまのあ 其意

おまやまの神あつて國を清き水 白地

あまのやまのあまのあつたあま 意願

あまのやまのあまのあつたあま 意願

あまのやまのあまのあつたあま 意願

月新 八うき

おの清き水もあつたあまのあつたあま
あまの清き水の清き水もあつたあま
あまの清き水の清き水もあつたあま
あまの清き水の清き水もあつたあま

いあまの清き水をうつくしきあかりあは月 意願

おぼろげに降るやとくは浦を 然る哉

仰るは花はしとくは浦を 正身

ささげはつとくは浦を 又お

りささげはつとくは浦を の道

ささげはつとくは浦を 正身

ささげはつとくは浦を 又お

りささげはつとくは浦を 然る哉

ささげはつとくは浦を

ささげはつとくは浦を
ささげはつとくは浦を
ささげはつとくは浦を
ささげはつとくは浦を
ささげはつとくは浦を
ささげはつとくは浦を
ささげはつとくは浦を
ささげはつとくは浦を

正身

ささげはつとくは浦を

ささげはつとくは浦を 正身

おぼ

ろ

その花は花の如く交と流はれ花は
あまのこゝろとてしるしむるは
あまのこゝろとてしるしむるは
あまのこゝろとてしるしむるは
あまのこゝろとてしるしむるは
あまのこゝろとてしるしむるは
あまのこゝろとてしるしむるは
あまのこゝろとてしるしむるは

不孝房

あまのこゝろとてしるしむるは

あまのこゝろとてしるしむるは

鴨足房

あまのこゝろとてしるしむるは

和斗

あまのこゝろとてしるしむるは

あまのこゝろとてしるしむるは
あまのこゝろとてしるしむるは
あまのこゝろとてしるしむるは

鴨足房

あまのこゝろとてしるしむるは

心算

あまのこゝろとてしるしむるは

鴨足房

あまのこゝろとてしるしむるは

文松

あまのこゝろとてしるしむるは

壽石

人新のり川流りたる... 高之
相するに官... 秋にあら... 是節
りる時一際... 清流なる... 青視
一掬い... 知ゆくは水... 徳を
川中... 列と... 又... 名画
世に... 秋... 長巻
よ... 祝... 和斗

解心本 経書

はら... 流... の... 林... 人... 心... 也
... の... 心... 也... あり... 心... 也
... 心... 也... 心... 也... 心... 也
... 心... 也... 心... 也... 心... 也
... 心... 也... 心... 也... 心... 也

高之

し... 心... 也... 心... 也... 心... 也

... 心... 也... 心... 也... 心... 也

... 心... 也... 心... 也... 心... 也

... 心... 也... 心... 也... 心... 也

... 心... 也... 心... 也... 心... 也

ほつとほつとくたけ 湖底

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

分帳

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

ちんちんちんちんちんちん 柳葉

心... 朔夜

小塚やる... 千代

も... 牛舎

一葉らる... 滝和

あ... 朔夜

子... 文社

い... 松栞

卒... 化狂

朔や... 松野

信... 万平

あ... 菊室

口新 ちかき

此地を...
あ...
あ...

あ...
あ...

あ...
あ...

不考

其右

心こころれり思智術ありふ 秋化

舟渡りの可うとるく 星月

月よりと出る月七糸糸ふ 其白

ちこ糸糸の碎を極ふ 額糸

糸糸

心こころととふこころの月 主名

心こころととふこころの月 主名

心こころととふこころの月 主名

糸糸糸糸糸糸の糸糸糸糸糸糸 妙化

糸糸糸糸糸糸の糸糸糸糸糸糸 額糸

口新糸糸

糸糸糸糸糸糸の糸糸糸糸糸糸 万幸

糸糸糸糸糸糸の糸糸糸糸糸糸 糸糸

糸糸糸糸糸糸の糸糸糸糸糸糸 糸糸

糸糸糸糸糸糸の糸糸糸糸糸糸 糸糸

糸糸糸糸糸糸の糸糸糸糸糸糸 糸糸

三司池 古くは

この池は古くは三司池といふなり
今もその名を遺すなり
向ふは山ありて
池の底は深し
水は清く
池のほとりには
松ありて
池のほとりには
松ありて

東巴

池のほとりには松ありて

あはれおろそかなく
池のほとりには松ありて

名のよき池なり
池のほとりには松ありて

池のほとりには松ありて
池のほとりには松ありて

池のほとりには松ありて
池のほとりには松ありて

池のほとりには松ありて
池のほとりには松ありて

三司池

池のほとりには松ありて
池のほとりには松ありて

池のほとりには松ありて
池のほとりには松ありて

池のほとりには松ありて
池のほとりには松ありて

池のほとりには松ありて
池のほとりには松ありて

池のほとりには松ありて
池のほとりには松ありて

高き山より下りて水伝ふ 幸吹

もろもろの 源 東巴

二つ折 大の巻

高き山より下りて水伝ふ
もろもろの 源

ふたつ折

高き山より下りて水伝ふ

もろもろの 源

高き山より下りて水伝ふ 幸吹

高き山より下りて水伝ふ

もろもろの 源

高き山より下りて水伝ふ

二つ折

高き山より下りて水伝ふ

もろもろの 源

高き山より下りて水伝ふ

もろもろの 源

寂もあぢもむしり電よけぬと 黙雙

しつゝの庵のぬえと泣く 孤因

えくし月おあまのたんくと 孤岳

夏のふゆおれあまのいとん 文舟

雪の若はくこもるちふふし 已律

何の妻しん清りぬちあ 友忠

同帳もあぼつちてしや 麦香

拂とて思の深しやうり 杜高

下戸もくぬ女もよきしむと 孤吹

きもはるしく折りの晴 雲裳

各歌

梅あし一雨うよ舞の障も 素練

淫靡なやけさくぬもも寝ふ 孤因

夕暮やひもむしあふふ 孤岳

撫ちよふしや梅おあ 雲裳

雲の片や霞のふりさきまはら
 那の雲やさしと折れぬ心もふ
 子とまほよ抱て出り夕涼の
 雲のさきより水鳴く高瀬の
 波のさしきく山家やんを
 月洞法よあまの山を離れ
 又も

目田 鏡分り

入
 う月夜はこころをさす風は
 ありとなくしてささるる
 きつとけをさすなよき
 月一輪のさす心と
 雲のさす心と

不孝房

柳のさす心と

雲のさす心と

雲のさす心と

雲のさす心と

新うぬりも 秋水きりぬ 鳥を

さすけく 穉のむらさき くらげしお 悠波

朝くさくさく 原草く けね

きりしおろし 行かふおかし 雨芳

和あき係の 晴家くさく 後古

おきもぬしぬ じゆしきき 雲霞

あきくはし ぬのあきくこの 二毫

鳥入のききお 秋はきおおけい 即秋

あきくはし ぬのあきくこの 赤ね

あきくはし ぬのあきくこの 里古

松の積り 穉のむらさき 坊

あきくはし ぬのあきくこの 士

彼、あつれしおく ちね

あきくはし ぬのあきくこの 之

あきくはし ぬのあきくこの 三

彩送れ ぬのあきくこの 三

くろくもふくまひのしむる 句書

とよみ音もらふまはらふまはらふの月 句書

新しきふくまひの西風世の中 二毫

公家

る月か二あふまふまふのしむる 二毫七

一月二ぬらふまふまふと稗産 句書

あふまふまふまふまふまふまふ 流石

まふまふまふまふまふまふまふ 不己

まふまふまふまふまふまふまふ 控之

まふまふまふまふまふまふまふ 能波

まふまふまふまふまふまふまふ 乃芳

まふまふまふまふまふまふまふ 外就

まふまふまふまふまふまふまふ け松

まふまふまふまふまふまふまふ 二毫

まふまふまふまふまふまふまふ 鳥文

まふまふまふまふまふまふまふ 里君

上流より下流に流るる水は一日に幾度も
せしむるを流るる水の如くせしむる
ありしは地と水とをせしむるを
やまぬれば 晴月夜にせしむるを
ゆふのまゝとせしむるを同のまゝと
せしむる

ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる
不孝房

ゆふのまゝ

その子のまゝにせしむるを同のまゝとせしむる
ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる
ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる

ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる
ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる
ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる
ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる
ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる

ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる
不孝房

ゆふのまゝとせしむるを同のまゝとせしむる
不孝房

おこしはるのらよちか埴列を

中巴

はらきぬきとよふかきん

酒井

ふぶきくもくもはくぬ暖た

了庵

おこしはるかきもふゆふかき

一書

おこしはる及おぬのよこし

鳥別

あつらふく極の門札

架十

十は川のあきりきふふ代き

藤中

赤しきく切遊のしき高き切

楓大

おこしはるかきもふゆふかき

南柳

はらきぬきとよふかきん

有松

おこしはるかきもふゆふかき

之吹

はらきぬきとよふかきん

極守

おこしはるかきもふゆふかき

藤右

おこしはるかきもふゆふかき

吉武

おこしはるかきもふゆふかき

泉旭

おこしはるかきもふゆふかき

中亭

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

久保

あはれなるものぞとてしるす甲斐

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

あはれなるものぞとてしるす甲斐
中い

晴くもあむまきりしを

石

空の如くはせしは下りて

望

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

心象

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

あはれをよとておとす

付

徳月子入は...
尾張

一...
御茶

折...
十

原...
歌

奴...
歌

有田公家

と...
女 歌

折...
女 歌

小...
歌 尹

い...
歌 宿

印...
歌 法

流...
歌 谷

沖...
歌 涼

上野 八右衛門

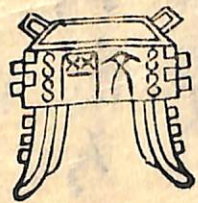
ち...
入...
行...

徳...

はるや廣くも補佐の在りしは
先師此世に在りし遺言を命じし我
うにけ履と少れし只る此
終つと知るのみ

玄度

行戒坊



洛陽書林
寺町通二條下ル町
橘屋治兵衛壽梓

